

# アークハリマ株式会社

## 外部人材・外部スペシャリストの有効活用 自社にない資源(リソース)を積極的に取り込み

### 事業内容

#### ステンレス加工の細かな要望にも対応 付加価値の高い製品づくりに注力

昭和44年(1969年)の創業で、播磨地域では他社に先駆けていち早くステンレスの販売を開始した。50年近くの業歴を有することもあり、化学系や重工業系、食品系などの大手メーカーに営業基盤を構築している。

主力となるステンレスの卸売に関しては、同業他社が取り扱っていない二相系ステンレスやニッケル基合金を扱っているのが特徴で、特殊材料は九州から関東まで営業エリアが広がっている。

また、顧客ニーズの多様化に合わせ、レーザー切断機やプラズマ切断機、ロボット溶接機などの設備を用いて、ステンレスの加工を伴う受注にも対応している。そのほか、

ステンレス製のタンクやプラント配管、小型成型品といった機器装置製作も手掛けている。

単なるステンレスの販売にとどまらず、付加価値の高い商材の販売や製品づくりに力を入れている。



ロボット溶接機

### 外部人材活用・人材投資に注力した背景

#### 外部の専門人材を柔軟に活用 「良い人材が働き続けることができる制度」の整備、改革の実行

創業してからしばらくは、親族を中心とした経営であったが、代表に柴田和久氏(現会長)が就任してから、より付加価値の高い製品を手掛けていくために人材への投資を進めていくようになる。人材投資を行った直後は固定費がかさみ、利益を圧迫したが、その時に採用した人材がその後の企業成長の原動力となった。

具体的な人材育成の方法としては、自創経営と呼ばれる考え方を導入。従業員が自ら計画を立て、チェックし、その目標に対して責任を持てる仕組みを社内に取り入れた。毎月1回土曜日に1日かけて、代表自ら研修や面接などを実施したほか、外部講師も招き社員教育を行った。

ただ、人材育成をどれほど行ったとしても、中小企業の資源(リソース)は限られたものであるため、外部の専門人材の力に頼らざるを得なかった。以前から外部のスペシャリストに体制構築の一助を依頼し、外部の専門人材を活用

することには経験則と自信があったという。協力してくれる外部人材への報酬を惜しむ中小企業は少なくないが、明確な目的意識のもとミッションが達成されれば報酬は惜しまないというスタンスは長年変わらない。

さらに、付け加えておかなければならないこととして、良い人材が残しやすい制度の充実も図ってきた。業績連動型の報酬支給体制を整えることで、従業員の取り組みとその成果に応えられるようにした。



アークハリマ株式会社 本社事務所

### アークハリマ株式会社

〒671-0252 兵庫県姫路市花田町加納原田771-1  
TEL: 079-252-2234 FAX: 079-252-0102  
<http://www.arc1.co.jp>

(代表者名) 柴田 耕作  
(創業年月) 昭和44年8月  
(資本金) 19,282千円  
(従業員) 41人  
(業種) ステンレスの卸売、同加工品製造

### 外部人材活用の成果と今後の展開

#### 目的を絞り、外部の専門人材の力を巧みに取り込む 今後はものづくりに軸足を移す

内部人材への投資・育成に加えて、外部の専門人材を目的に応じて巧みに活用できたことにより、売上増加につながっている場合もあれば、社内業務・生産の効率化につながっている場合もある。

例えば、最近では社内基幹システムを導入する際、システムの細かい要件定義・修正は自社のプロジェクトリーダーが行い、それ以外のシステム構築部分は外部人材となるコンサルタント・エンジニアなどに委託した。外部の人材に丸ごと仕事をお願いするのではなく、自社の従業員が行うべきところと、外部の人材に頼るべきところを明確に分けることができている。自社でやるべき業務のコアな部分を自社の従業員に考えさせることが、外部の専門人材を巧みに使いこなせる要因となっているようだ。

そのほか、自社にない資源(リソース)を取り込んでいくための外部研修には、役職に関わらず全ての従業員に積極的に参加させている。代表自らも様々な知見を得るために地域の講習(勉強会)から都市部のセミナーにまで赴いているという。

社内の制度面では、良い人材が残しやすい環境を整えるために業績連動型の報酬制度を整備してきたが、この制度が従業員のモチベーションを支えている部分が間違いなくあるという。実際に大手企業に引けを取らない報酬を得ている社員もいる。

この制度に加え、以前より女性の働きやすい環境も整えるべく、産休・育休制度の充実も図ってきた。男女の賃金に差があった時代から、いち早く男女同一賃金を導入するなど、女性の働きやすさを考慮するよう努力してきた。さらに、今後は女性の管理職を育成していくことが、人事面での目標の一つとなっているようだ。

今後の展開としては、現在はステンレスの卸売に軸足が置かれているが、今後はステンレスの加工とそれらを材料とした機器装置の製造に重きを置いていきたいとしている。2017年には代表が柴田耕作氏に交代し、一層の飛躍と発展が期待される。



代表取締役 柴田耕作氏



女性が働きやすい職場



ものづくり~機器装置製作